

高僧のおもかげ

夢窓国師坐像（重要文化財）



夢窓国師坐像

お寺に納められる彫刻は、仏像だけではなくありません。徳の高いお坊さんや、宗派の開祖、そのお寺を開いた先達などを偲んで造られた像も、禅宗の寺院を中心に数多く存在します。

鮎沢地内にある古長禅寺は禅宗のひとつ、臨済宗のお寺です。ここに大切に安置されているのが、今回紹介する夢窓国師坐像です。まるで生きているかのようにリアルに刻まれたその面容が、国師の生前のおもかげを偲ばせます。

夢窓国師（1275～1351）は、今から700年程前、鎌倉時代から南北朝時代に生きた禅僧です。国師は名前ではなく、徳の高い僧に朝廷から贈られる称号で、僧としての本来の名前は夢窓疎石（そせき）といいました。疎石はこの国師号を生涯の間に7度も賜った名僧として知られています。

生まれたのは、伊勢（現在の三重県）ですが、山梨にも縁が深く、現在の市川三郷町にあったとされる平塩寺で仏の道に入り、後に甲州市塩山に恵林寺を開いたのも夢窓国師です。古長禅寺も正和年間（1312～1317）に、国師が再興したものといわれています。

国師はまた、庭園造りの名人としても知られています。恵林寺をはじめ、世界遺産に登録されている京都の西芳寺（苔寺）や天龍寺、鎌倉の瑞泉寺など、国師

の設計と伝えられる名園は全国各地にのこります。古長禅寺の庭園も夢窓国師の作とされ、現在はお寺の敷地全体が山梨県の指定文化財になっています。

今回紹介した国師像は、国師の死後、七回忌にあたる延文2年（1357）に、国師を慕う人々の願いによって造られ、現在は国の重要文化財に指定されています。

古長禅寺にはまた、もうひとつの国指定の文化財、天然記念物「古長禅寺のビャクシン」があります。四天王に見立てて植えられた4本のビャクシンの大木は、夢窓国師の「お手植え」と伝えられています。

国指定の文化財2件を有し、敷地全体が県指定文化財となっている古長禅寺。武田信玄の母「大井夫人」ゆかりのお寺としても知られ、南アルプス市の中でも最も歴史豊かなお寺のひとつといえるかもしれません。

※今回紹介した作例は、信仰の対象であり、一般にひろく公開されているものではありません。



夢想国師坐像（全体）

像内に記された銘文から、制作したのは奈良の大仏師行成であることがわかります。



大井夫人の墓

大井夫人は、自らのふるさとにある古長禅寺で晩年を過ごしたともいわれ、本堂の裏手にはひっそりと、その墓ものこされています。



古長禅寺



古長禅寺の庭園

夢窓国師の作といわれ、私たちに四季折々の美しさを見せてくれます。



古長禅寺のビャクシン

伝説のとおり、夢想国師「お手植え」が事実ならば、樹齢約700年ということになります。